

## 日曜地質巡検会に参加して

中 村 倫 明 (佐世保南高)

ラジオに耳を傾けているとニュースで北松の地すべり地帯で地割れがひどくなり、民家の取壊しが行なわれたとのことである。このニュースを聞いていると、中学生の頃目撃した人形石山の地すべりと、昨年10月20日に松浦市の笛吹、田の平へ東北地区で化石採集へ行った時に聞いた話がよみがえってきた。

中学生のころ私は、伊万里市山代町久原に住んでいたが、ある日火山爆發かと思われる大音響を耳にして、びっくりしてしまった。すぐにそれが地すべりであることを知り、野次馬根性で浦之崎へ走り、目をおお惨状の中に子供心ながら原因を考えたものであった。たまたま巡検会の話の中で、地すべりの原因となっているのは第三紀層の上に乗っている砂礫層であって、その中にふくまれている礫を調べても、チャートがほとんどでその他、火成岩もわずかふくまれ、どういう経路で入ったか不明であるとのことであった。

実をいうと、こんな説明を昨年の4月にでも聞いていれば、馬の耳に念仏で興味も全然わきもしなかったと思う。専門は生物で、野山を歩いていても目につくのは草花や昆虫で、岩石はあくまですべて石ころであった。ところが昨年の5月、日曜地質術検会に参加予定の先生が病気でたおれてしまい、急きょ代役に私があたり柴岩先生共々、式見へ行くはめとなった。ハンマー、クリノメーター等をもたされて、その使用法も知らず、人々の後からでもくっついて歩いていけば、出張の責任は果せるといふかその

時の私の心境であった。

大波止でバスに乗車し、手熊であり。30人あまりの人々がこの巡検会に参加されていたが、見知った人もなく、三々五々にグループを形成し、非常になごやかな雰囲気、しかも懇切丁寧な説明をしていただいたにもかかわらず、初めて聞くことばかりで、理解できず、「これではだめだ。」と痛感したものどうしようもなく、あちこちの露頭をハンマーでなくて岩石の採集のみを行ない、なにか1人取りのこされた感がつよかった。それでも、黒色片岩、石英、結晶片岩、火山角礫岩等を覚え、相川の断層、式見の結晶片岩と火山角礫岩の不整合、田舎の玄武岩などが印象に強く残った。昼食時の自己紹介を聞き、小・中学校の先生をはじめとしていろんな職業の人が混っており、条件としては私とかわりはなく、結局勉強の量の問題だと思い、心に秘かに期するものがあつた。

佐世保に帰り採集してきた岩石の名称を確認して整理し、これらの岩石の成因、断層、不整合等を参考書で調べ、クリノメーターの使い方も習得した。こうして種々の本を読み、専門の先生方に鉱物の結晶等の話を聞いたりしているうちに、地学が大変おもしろくなった。

昨年8月の県教育委員会主催の地学講習会にも参加して、地質図の書き方、地層の見方、岩石の薄片標本の作成法等を少しばかり習得した。その際、矢上地方の地層の累積状態、小ヶ倉の横臥褶曲等を実際に目で確かめて、地球の歴史の一端にふれたような気がした。

第2回目に参加した日曜地質巡検会は県北地区での化石採集会で前にも少しふれました。

松浦行のバスを長野で下車し、徒歩で志佐川に沿って下流へ下り、横辺田付近の川床に露出している大屋層の中からタニシの完全な化石とバカガイの化石の破片を採集する。再び上流へ引返し、田の平の加勢層からの海産の貝類を採集した。化石は古生物の遺骸でもあるし、特に興味を覚えるところでもありましたし、手を傷だらけにして採集いたしました。その他、民家の分布と砂岩と玄武岩の分布境界線の話、炭鉱の炭層採掘の問題、玄武岩の噴出、板状節理と柱状節理等を見たり聞いたりして散会しました。

第3回目に波佐見地方の巡検会に参加し、波佐見焼の品質改良のための県の窯業試験場の見学、これよりバスで内海から中尾郷に入り、三河内、波佐見、有田等で使用している陶石採集場も見物して、純白の流紋岩でできている陶石のサンプルを採集する。これより三股に向い、長崎県波佐見オパールとして名高いオパール採石場を見学し、原石を捜し出す。真珠岩を母岩として、その中にふくまれているために、大きくて立派なものをもと欲を出して捜してみたが、無色、白色、飴色、緑色等の蛋白石見つかって貴蛋白石等は誰れも発見できなかった。

以上3回のみ日曜地質巡検会に参加したわけですが、これがきっかけとなり地学に興味をわき、暇々に少しずつ勉強していく習慣がついたことは私自身にとって非常に収穫でした。現在では生徒の持参してくる岩石の名称も少しずつわかりはじめましたし、道を歩いておりました

も路傍の石の一つ一つが何か違って見えはじめ山を見ても露頭を捜し、どういふ岩石から出来上って、いつごろ出来たのだろうかと思像する楽しみが増えました。

そうこうしているうちに、今年の4月から1年生の地学を受け持たされることも、ほぼ間違いなく、地学に関しては無から出発した経験を生かし、週1時間を如何に使って生徒に興味を起させ、我々の生活にもっとも密接な関係を持ち、反面忘れられている地球をどう理解させようかと頭を悩めています。

以上のようなことを巡検会に参加して悟ったといつては変かも知れませんが、学びとったことです。私自身、まだまだわからぬことが多くて生徒指導も満足に出来る状態ではございませんので、機会あるごとに巡検会に参加いたしまして、消化不良になっても結構ですから、頭に入るだけはつめこみたいと思っております。

最後に巡検会後のことについての要望ですが県全体でも県北地区におきましても結構ですが月に一度でも反省会を兼ねて集会を持ち、採集してきた岩石、化石の整理、標本交換等を行ない、また雑談形式でもいいかと思いますが地学指導の結果生じる問題点等を話し合ってはどうか。

これを行ないますと、会員相互の親睦はもとより、私達の知識を深めることにもなりますし月に一度の日曜地質巡検会がもっと有意義なものとなり、ますます発展していくことになりはしないでしょうか。